

パラグライダー

気軽にできる空中散歩

パラグライダーって？

ポリエステルなどの丈夫な生地(キャンピー)と極細ロープ(ライン)で作られたパラグライダーに、ハーネスという吊具に座ってぶら下がり、滑空を楽しみます。通常は、山の斜面を駆け下りて離陸します。パラグライダーは折畳んで装備と一緒に大型ザックに収納し持ち運べます。動力を付けて平地から飛び立つのも可能です。



フライトをしよう！

JHFの技能証規程にそった安全な指導

練習課程 **A級パイロット**

パイロットは、四つの技能証を順に取得しながら、より高度な飛行技術を身に付けていきます。

練習課程 **B級パイロット**

ノービスパイロット

ノービスパイロット証を取る頃には、上昇気流を利用して高度を上げたり長時間滞空すること(ソアリング)もできるようになります！

パイロット

競技も楽しい！

競技も盛んで、いくつかのバイロン(地上の建物など目印となるもの)の上空を決められた順に通ってゴールまで飛び、その所要時間の速さを競うのが主流です。好成績を出すためには、飛行技術だけでなく、気象の知識や冷静な判断力が要求されます。



パラグライダーの歴史

1978年

フランスのスカイダイビング愛好者が、山の斜面からパラシュートで飛び立ったのが、パラグライダーの始まりといわれています。

1986年頃

アルプス周辺の国々から世界中に広まり、10年後には最もポピュラーなスカイスポーツに！

2010年3月現在

JHFの技能証所有者は約52,000名。体験会の参加も含めるとその数倍の体験者がいると見られます。

JHF

JHFは、社団法人日本ハング・パラグライディング連盟(Japan Hang & Paragliding Federation)の略称。文部科学大臣に公益法人として許可されたJHFは、日本のハング・パラグライディングを統括し、このスポーツを愛好する人々(フライヤー)を代表する団体として、ハング・パラグライディングの発展と普及のために活動しています。主な事業は、フライヤー会員証の発行、技能証*の発行、普及振興事業の推進、指導員の養成、各種競技会の主催および公認などです。

*技能証：ハング・パラグライディングには、「免許証」がありません。代わりに各人の技能程度を証明するのがJHFの「技能証」です。

会員

JHFは、フライヤー会員、正会員、そして賛助会員によって構成されています。正会員は、各都道府県のハングライディング・パラグライディング連盟、賛助会員は、JHFに賛同する個人や団体。フライヤー会員は、JHFに会費を添えて会員登録をした個人のことです。

フライヤー会員は、以下のようにフライヤー宣言をし、そのとおりに行動します。フライヤー会員になると、JHFの事業に参加することができ、会員証が発行され、機関誌が送付されます。

フライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

JHFの事業と主な活動

技能証の発行

JHFは(財)日本航空協会からこのスポーツの統括代表機関として公認を受けた技能証発行機関です。日本各地のフライトエリアで飛ぶためには、技能証の所持を義務づけています。技能証は、カリキュラムにそった練習をし検定に合格した者に発行しており、パイロットは練習課程A級パイロットからパイロット証まで順にステップアップしていきます。JHFの技能証は自動車免許と同じように、国際技能証と呼ばれる「IPPIカード」に書き替えることにより、海外でも効力を持ちます。

普及振興事業の推進

スカイスポーツという冒険的なイメージが強いようですが、ハング・パラグライディングは年齢性別を問わない生涯スポーツとして、すべての条件を備えています。JHFは公益法人として、広く一般市民にこのスポーツのすばらしさを理解してもらい、一人でも多くのスカイスポーツファンを増やすことを目的とする普及振興事業に力を入れています。

指導員の養成

ハング・パラグライディングを楽しく安全に習得するためには、他のあらゆるスポーツと同様に優れた指導者を必要とします。JHFでは、フライト技術を教習・指導するための指導員として、厳しい研修と学習課程を習得した者に、ハングライディング教員・パラグライディング教員技能証を発行しています。

各種競技会の主催・後援

ハング・パラグライディングは、エキサイティングな競技スポーツとしての側面も持っています。JHFは毎年日本選手権を主催し、また全国のJHF公認大会の開催を後援しています。世界的には2年毎に「世界選手権」が開催され、日本でも1981年にハングライディング世界選手権を大分県別府市で、1993年に女子ハングライディング世界選手権を山形県南陽市で、1995年にパラグライディング世界選手権を福岡県北九州市で、2010年に第2回パラグライディングアジア選手権を徳島県にし阿波でそれぞれ開催しました。

選手の海外派遣

JHFでは日本選手権をはじめ各種の競技会において成績優秀な選手を、世界選手権等の海外の競技会へ日本代表として派遣しています。

安全性に関する指導

事故を未然に防ぐために、JHFは安全対策の研究を常に行っています。それらの成果は機関

誌や愛好雑誌等を通じて一般に公開しています。また国内外のメーカーが製造する新機体について、わが国での使用に適しているかどうか、その安全性を検証し認定しています。

情報の提供

JHF組織におけるすべての活動実績について、その記録を集計し、発表しています。会員に対しては機関誌「JHFレポート」を定期的に発行し、また、JHFウェブサイトにて、最新の情報と資料を配信しています。

教本の発行

初心者からベテランまで、安全で快適なフライトを学習するため、飛行技術、飛行ルール、気象等に関する飛行知識の習得を、わかりやすく解説した教本を出版頒布し、日本全国で統一のとれた教習課程が行われるよう指導しています。

競技記録に関する認定

JHFではハングライディング・パラグライディングの日本選手権をはじめ、年間に開催されるすべての公認大会で優秀選手を表彰し、その記録を認定・管理しています。

国際航空連盟(FAI)が交付する国際技能記章は、財団法人日本航空協会(JAA)からの権限委譲により、JHFが認定を行っています。ハングライディングはデルタ記章、パラグライディングはイーグル記章で、各々4段階の技能記章があります。

「村おこし事業」への協力

JHFは社団法人として公益的事業に前向きに取り組んでいます。その一環として、過疎化の進む地域の活性化のため、地方自治体や森林・農業組合に、その地域の連盟(47都道府県連盟)ともども積極的な協力を行っています。

他団体活動への参加協力

ハングライディング・パラグライディングの生涯スポーツとしての振興は、JHFの単独の活動ではなく、他のスポーツ団体や行政機関とのバランスのとれた連携・協力が必要です。

JHFは「文部科学省スポーツ・青少年局」の所管にあり、「全国スポーツレクリエーション祭」および「アウトドアスポーツフェスティバル」に積極的に参画。SLJ実行委員会が開催する「スカイレジャージャパン」へも参加協力を行っています。また、地域の生涯スポーツ活性化のため、常に積極的な協力態勢を準備しています。ハングライディングは国民体育大会の競技種目として行われたことはありませんが、1998年の神奈川県・ゆめ国体において、世界各国から有力選手を招き、国体イベントとしてのハングライディング国際大会が開催され好評を博しました。国体におけるデモンストレーションによるスポーツ行事には各都道府県連盟による参加を後援しています。

ハングライダー・パラグライダーの組織

